

2021年7月27日

整形外科に、過去に通院・入院された患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 橈骨遠位端骨折術後の早期握力訓練

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 香川大学医学部 整形外科 加地良雄

[研究の目的]

橈骨遠位端骨折術後のリハビリテーションにおいては、骨接合材料の進歩により早期の関節可動域訓練が可能になったこともあり、良好な関節可動域が得られるようになりました。一方で握力の回復は関節可動域の回復よりも遅れることが知られており、また、受傷前の握力にまで回復しないこともあります。橈骨遠位端骨折術後に軽微な負荷から段階的に負荷を増やせるグリッパを導入し、術後早期から握力訓練を開始しています。また、術後6週以降は自主訓練用のグリッパーを用いた連日の訓練を行っています。本研究の目的は橈骨遠位端骨折術後の早期握力訓練により、良好な握力回復が得られているかを早期握力訓練導入前の症例と比較することにより検討することです。また、早期握力訓練により、術後の橈骨遠位端アライメントの矯正損失が生じていないか、手関節機能が良好に回復しているかも併せて調査します。

[研究の方法]

対象となる患者さん

橈骨遠位端骨折の患者さんで、2015年1月1日から2021年6月30日の間に当院及び協力研究施設のキナシ大林病院、榎村病院、オサカ病院整形外科で手術を受けた方。

利用する検体・診療情報

診療情報：診断名、診断日、年齢、性別、身体所見(基礎疾患)、検査結果(X線検査、CT検査、握力検査、理学所見、手関節および上肢機能評価検査)、治療開始日時、手術施行日時

[外部からの検体・診療情報の提供]

利用する診療情報等は、患者さん個人が特定できない状態とし、下記の研究組織より提供されます。

[研究組織]

香川大学附属病院リハビリテーション部 加地良雄

キナシ大林病院 院長 真鍋健史 榎村病院 院長 榎村重樹

オサカ病院 院長 森川健一郎

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部整形外科 担当医師 加地良雄

電話 087-891-2195 FAX 087-891-2196